

岐阜県 難聴児支援センターだより

Vol. 15

令和7年10月



お子さんのきこえに関するファミリーセミナー in 岐阜大学医学部附属病院

令和7年8月8日

■ 岐阜大学医学部附属病院 9:30~11:00

講 話 テーマ: きこえにくいってこんなこと!

講 師: 岐阜大学教育学部特別支援教育 助教 鈴木祥隆先生

きこえにくいことについて分かりやすく体験

今回は0歳~16歳までのお子さんとそのご家族や、学校の先生方、大学の学生さんなど、全部で会場が40名、オンラインで12名のご参加がありました。

家族や保育園、学校の先生、友達など、難聴のお子さんを取り巻く人々は「きこえている」方が多く、「きこえにくさ」「何に困るか」を想像しにくい場合があります。鈴木先生からは「きこえにくいってこんなこと!」をテーマに、前半は「きこえる」ということを、いくつかの体験を盛り込んで視覚的、聴覚的に分かりやすく示してくださいました。「伝える」ということの難しさも体験を通して感じることができました。大人も子どももそれぞれの体験に「なるほど」と納得されたり、「えっ」と驚かれたりと感嘆の声などが聞こえていました。

口形だけで相手に伝える体験。
みんな頑張っているよ

クイズ形式で分かりやすく
体験で学びました



自立について考えてみました

後半は、言葉の発達や概念の育ちを具体的な例を挙げて、教育という視点から分かりやすくお話してくださいました。ボトムアップで力をつけていくことと、トップダウンで力をつけていくことの両方が必要だということも、具体的な例を聞くことでとても分かりやすかったです。

お子さんへのサポートについて、自転車の補助輪と平均台の違いの例を挙げて説明してくださったのが、とても分かりやすく、支援の手をどちらから離すかの違いを理解することができました。



インドネシアの青年たちとの出会いを通して

一般の参加者の他に、鈴木先生が普段から支援、交流してみえるインドネシアからの留学生のBomby(ボンビー)さん、日本へのスタディツアーで全く一人で日本に来た、日本に滞在中の難聴のインドネシア青年Feidy(フェイディ)さん、岐阜大学の鈴木先生の研究室の難聴の学生さんなども参加してくださいました。おかげで、グローバルな視点でのロールモデルを目の当たりにできました。難聴のインドネシア青年Feidyさんは、日本語の音声と日本語対応手話で自己紹介してくれました。その後、入国審査で難聴ゆえにうまく言葉が通じなくて時間がかかったことや日本語や日本の手話を勉強していることなど、インドネシア語で話してくれたのをBombyさんが通訳してくれました。会場からの質問に対して、「聞き取れない時に聞くことが恥ずかしいとは思わない。学ぶために聞く。」とFeidyさんは答えていました。

また、会の終了後には、参加者の16歳の難聴の高校生を含めて、4人の青年たちが集まって、日本語、日本語対応手話、インドネシア語、インドネシアの手話など、あらゆる方法でコミュニケーションをとって交流しており、どの方もとてもいい表情をしていたのが印象的でした。高校生の方からは、「自分と同じような障がいを持った先輩たちが、色々な壁を乗り越えていると知り、自分も頑張りたいと思いました。」との感想をいただき、よい機会をもてたと嬉しく思いました。

活気のあるインドネシアの青年たちに感動!

交流の場を設けてくださった鈴木先生に感謝です

青年たちのコミュニケーション力はすごいね!



各務原市 ファミリーセミナー 令和7年7月17日

■各務原市総合福祉会館 9:30~11:00

講話 テーマ:きこえにくさのある子への支援 ~岐阜県難聴児支援センターの取組~
講師:岐阜県難聴児支援センター 支援員 福井智恵



今回のお子さんのきこえに関するファミリーセミナーは、各務原市総合福祉会館で行いました。各務原市はアクセスが良いようで、来やすかったとの声も聞かれていました。保護者5名、お子さん1名、小学校の先生1名、発達支援センター職員1名、保健センター職員1名、保健師5名の計14名に参加いただきました。講話では、難聴児支援センターの福井支援員から、きこえにくさに関すること、難聴体験、関わり方のポイント、難聴児支援センターについてなど話をしました。難聴体験では、耳栓を使ってグループワークをし、一人だけ聞こえにくい状況での会話を体験してもらいました。いくつかのグループがあり、全体的にざわざわした中での会話だったので、耳栓をした人は周りの会話が聞き取れないという感想と、やはりマスクをしていて、口元がみえないと余計に分からないという声もあり、聞こえの配慮について実感することができていた様子でした。

交流会では、各参加者が思っていることや聞きたいことを出し合いました。いつものファミリーセミナーは、両耳難聴の方や関わる方がほとんどなのですが、今回は片耳難聴の方や関わる方が何名かご参加いただきました。両耳、片耳に関わらず、聞き取りにくさやその配慮については共通のものがあ、お子さんの年齢が上の保護者の方の話が参考になったり、「こうすると良いですよ」とアドバイスをされたりと、活発に意見交換がされていました。保健師さん方からも、保護者の考えや経験を生の声として聞くことができ、良かったとお声をいただいたり、違う市町村の保健師さん同士がお話されたりする機会にもなったようです。

また、ファミリーセミナーの目的の一つに保護者さん同士をつなぐことができたということがあります。セミナー終了後、玄関口で会話してみえる方々が今回もいっしょに、実際の場でつなぐことができて良かったと感じています。

理解啓発活動の紹介

● R7.6.14 「海津市 保育者研修会」 海津市保育協会主催

● R7.7.26 「"聞こえない"ってどんなこと? ~聴覚障がいとそのコミュニケーションについて学ぶ講座~」 多治見市役所福祉課主催

当センターの活動の一環として、お子さんの聞こえに関わる啓発活動を行っています。上記の研修会の参加者の方々が熱心に講話を聞いてくださり、体験で聞こえにくさについて実感しながら学んでくださっていました。

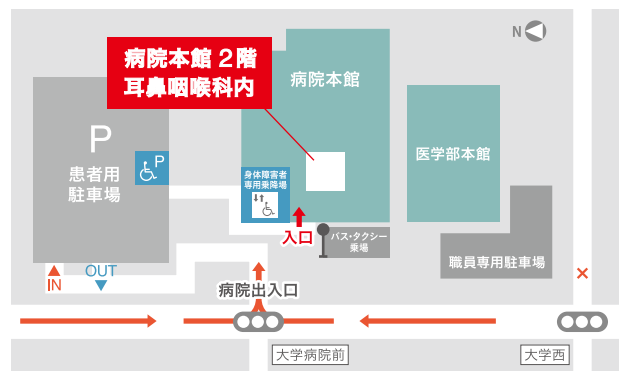
岐阜大学医学部附属病院 難聴児支援センターの場所

岐阜大学医学部附属病院本館 2階
耳鼻咽喉科内



※お越しの際は、岐阜大学医学部附属病院本館1階総合受付にお声掛けください。

※急なご来院の際、相談室にスタッフが不在の場合は、外線等で難聴児支援センター事務室にご連絡ください。
電話番号 058-230-6198



交通アクセス・病院へのアクセス



●鉄道

【JR】
東海道本線「岐阜駅」で下車
【名古屋鉄道】
名鉄本線「名鉄岐阜駅」で下車

●バス

JR岐阜 名鉄岐阜	岐阜大学・病院線	／約30分	岐阜大学 病院下車 料金 (400円)
	直行便 清流ライナー	／約25分	
	岐南町線	／約40分	

発行: 岐阜大学医学部附属病院

〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-230-6198 FAX 058-230-6199

<https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/origin/gifu-deaf-center/>
E-mail: g_nantyo@t.gifu-u.ac.jp